

信州型避難所システム実働訓練の実施」 -イタリア式避難所システム- の実施報告書

◇実施日時：令和7年12月13日（土）～14日（日）

◇実施会場：信州大学松本キャンパス中央広場

◇参加者数：250名



◇総評

信州型避難所システム実働訓練は、イタリア式の先進的な避難所システムの実装可能性を日本国内で実証した、国立大学を会場にした初めての試みである。250名の参加者により、防災士を取得した学生、DMAT等の医療専門家、および地域住民が統合された、実践的で総合的な訓練が実現された。

本訓練を通じて、被災者の身体的・精神的健康を最優先とするイタリア式システムの基本設計思想が、日本の災害対応文化に組み込まれるべき重要な価値であることが改めて確認された。今後、この訓練で得られた知見と経験が、長野県下および全国の防災減災体制へと段階的に波及することにより、日本全体の災害対応の質的向上が実現されることが期待される。特に、国立大学という教育・研究機関が、地域の防災減災において中核的な役割を果たしうることが実証されたことは、高等教育機関の社会的責務に関する新しい認識を与えるものである。

◇訓練内容と展開

第1日目（12月13日）：支援・避難拠点の設置・開設

12月13日（土）は、イタリア式避難所システムに基づいた支援拠点および避難拠点の設置・開設が行われた。

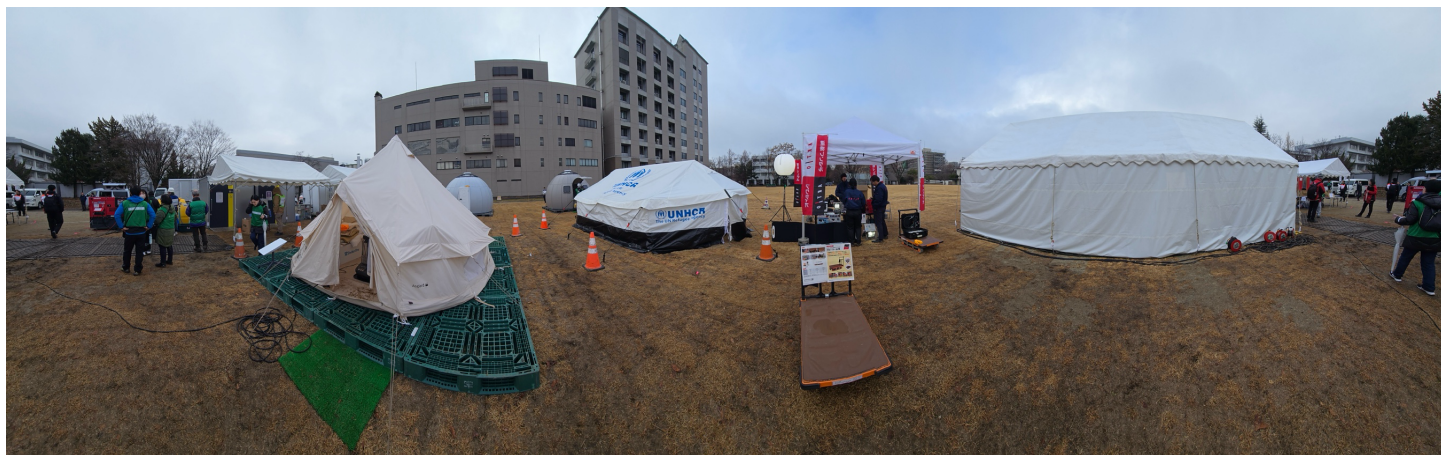
- ① 衛生設備（T：トイレ・シャワー）の設営: 仮設トイレおよびシャワー施設の搬入・配置
- ② 食堂・厨房施設（K：キッチン）の開設: 炊事体制の確立と温かい食事提供体制の整備
- ③ 宿泊施設（B：ベッド）の設置: エアベッド、コット、個室スペース、間仕切りの配置
- ④ 医療対応エリアの設営: DMAT医療チームの活動拠点の確保と医療資機材の配置
- ⑤ 支援スタッフの配置: 管理部門、運営スタッフ、ボランティアの役割分担と配置

この段階では、発災から48時間以内という実際の対応時間を想定し、効率的で迅速な拠点構築が検証された。



第2日目（12月14日）：被災者支援の実施

12月14日（日）は、設営された拠点における実際の被災者支援が実施された。以下の活動を包含した



- ① 避難者受け入れと登録: 住民参加者を避難者として受け入れ、受付・登録業務のプロセス検証
- ② 医療トリアージと初期対応: DMAT医療チームによる避難者の健康状態確認、必要に応じた医療相談
- ③ 食事提供: キッチン・食堂施設における温かい食事の提供と栄養管理
- ④ 衛生管理: トイレ・シャワー施設の利用と衛生環境の維持
- ⑤ 生活支援: 宿泊施設での休息、プライバシー確保、コミュニティ形成支援
- ⑥ 情報提供と安心確保: 避難情報、支援制度、復旧見通しに関する情報提供



◇地域住民（松本市元原地区）の参加

松本市元原地区からの住民参加は、本訓練の実践的価値を大幅に高めた要素である。地域住民との協働により、実際の避難所運営における地域コミュニティとの相互作用、文化的配慮、および地区の固有の災害リスクに対応した対策立案が可能となった。これは、災害対応の一般化された標準化と地域固有の特性とのバランスを検証する上で、不可欠な参加層である。



◇報道

TBSニュース：<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/2347302?display=1&mwplay=1>

